機能	目指す拠点の姿	振り返りの視点	次期５か年で取り組むこと	平成23年度行動計画 ・達成目標（法人の役割）	平成23年度行動計画・達成目標 （行政の役割）
親子の居場所Ｐ１	① 利用する人を温かく迎え入れる雰囲気がある。	○利用する人を迎え入れるための配慮、工夫をしているか。	【法人】 ●最寄駅からの道路が道幅が狭く、交通量が多く危険なので、利用者が来館しやすいようにする。例えば、利用者に同行し、サポートするボランティアを育てる。	●最寄駅からの道路が道幅が狭く、交通量が多く危険なので、利用者が往来に大変であることを認識する ●障害のある方などで往来に不自由する場合には事前相談によって応じられる場合があることを行事案内などで明記する。 ●事前相談がある場合には対応できる体制づくりに取り組む。	●こんにちは赤ちゃん事業を通じた周知を行う。具体的にはリーフレット類の配布および訪問員に紹介する場としての認知を働きかける
		○利用者の間に交流しやすい雰囲気ができているか。	●入館制限時の対応を工夫する。（具体的には‥6月、7月、8月のあっとどろっぷに明記。）	●入館制限時の対応を新規登録者は断らないで済むように入館制限許容人数を設定する。初回登録時に入館制限時対応について説明する。6月号以降のあっとどろっぷ（月刊通信）に明記する。	
			●利用者への対応についてのスタッフの研鑽	●利用者への対応についてのスタッフの研鑽。	
			【区】 ●こんにちは赤ちゃん事業を通じた周知	●新規受入れ説明は、入館の際に受付で即時対応できるよう、ひろばスタッフ全員が新規説明をできる体制を実施した。	
	② 世代、性別等を超え多様な養育者と子どもが訪れる場所になっている。	○多様な養育者と子どもを受け入れる配慮、工夫をしているか。	【法人】 ●妊娠期の方や年齢の上がった（3歳以上）子の養育者にも、訪れてもらいやすい工夫 ●多様な養育者の来館により把握される多様な支援ニーズに対応するために、関係機関との情報交換やネットワーク関係づくり ●同じニーズ、共通課題を持つ親同士のつながりづくり 【区】 ●多様なニーズをつなげる先である関係機関とのネットワークづくりの支援 ●認知度に比べて利用率が低いこと踏まえ、拠点の利用に結びつくような対象者への周知方法の工夫（再掲） ●こんにちは赤ちゃん事業を通じた周知（再掲）	●外国人の支援ニーズを把握するためにニーズ調査を関係機関と連携して実施する。 ●玄関のまわりから、外国人にも使える施設であることを明記する。 ●妊娠期の方や年齢の上がった（3歳以上）子の養育者にも、訪れてもらいやすい工夫。 ●多様な養育者の来館により把握される多様な支援ニーズに対応するために、関係機関との情報交換やネットワークづくり ●同じニーズ、共通課題を持つ親同士のつながりづくり。 ●リーフレット類のメンテナンス、印刷などを行う。	●多様なニーズをつなげる先である関係機関とのネットワークづくりの支援 ●認知度に比べて利用率が低いこと踏まえ、拠点の利用に結びつくような対象者への周知方法の工夫（再掲） ●こんにちは赤ちゃん事業を通じた周知（再掲） ●外国語どろっぷリーフレットの積極的広報 ●外国人同士のつながりも薄い現状について把握し情報提供を行う。 ●拠点の利用拡大について、稼働率の視点から、基準をどう捉えるか、市、各区とも連携して考えていく。
		○父親、祖父母等の利用があるか。		●育児休業中の方のためのプログラムの実施。	
	③ 子どもにとって安全な環境(防災・防犯・衛生・事故防止)が確保されている。	○リスクを減らし、安全性を確保する取り組みがされているか。	【法人】 ●ヒヤリハット経験者をより減らしていくための安全管理対策 ●安全に利用するため、また公共の場であることを踏まえ、施設の利用方法、おもちゃの使い方などのルールを、スタッフから利用者に伝えていく。 ●開所前の想定を超えて0～2歳児の利用が多く、年齢にあったおもちゃが少なく、改善する必要がある。	●安全点検の継続実施。	
		○事故や災害発生時の対応についてルールづくり、訓練がされているか。		●年齢にあったおもちゃや環境について常に検討し充実させる。	●感染症に対する啓発支援（健康づくり係との連携・調整）
		○衛生管理が適切に行われているか。			
	④ 親（保護者）がくつろいで過ごせる環境が確保されている。	○大人が過ごす空間への配慮がされているか。	【法人】 ●親の作品展示など、親自身が自己表現し、情報交換のきっかけとなるような空間の創出。 ●父親向けの座談会や公園遊び等の実施 ●利用者との信頼関係を構築し、利用者が子育てのつらさを吐き出せ、本当にリラックスできる場の雰囲気づくり ●親が子どもを遊ばせながらリラックスできる企画の実施	●利用者との信頼関係を構築し、利用者が子育てのつらさを吐き出せ、本当にリラックスできる場の雰囲気づくり ●親が子どもを遊ばせながらリラックスできる企画の実施 ●父親がくつろいで過ごせるための環境づくりを目指す。 ●土曜日に男性ボランティアの参加を促す	

機能	目指す拠点の姿	振り返りの視点	次期５か年で取り組むこと	平成２３年度行動計画 ・達成目標（法人の役割）	平成23年度行動計画・達成目標 （行政の役割）（案）
親子の居場所P２	⑤ 子育て支援ニーズ把握の場になっている。	○ニーズを把握するための工夫、仕組みがあるか。	【法人】 ●利用者からニーズ発信ができるようなしくみ（情報交換ノート、意見箱の設置など）の導入 【区及び法人】 ●拠点の利用者以外の当事者からのニーズ把握（就労家庭など） ●解決につながっていないニーズについて、解決に向けた取組を継続	●利用者以外も含めた子育て世代に対してテーマを絞ったニーズ調査の実施。	●拠点の利用者以外の当事者からニーズ把握
		○把握されたニーズが共有され、解決につながっているか。			●解決につながっていないニーズについて、解決に向けた取り組みを継続
	⑥ 親（保護者）自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。	○子どもの年齢、月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。	【法人】 ●2歳児～3歳児位の子どもの発達に合わせた遊びを、親子で経験するグループ遊びの実施 ●子育てを振り返るために、居場所の中で、親としての意見を導いていくように、スタッフがファシリテーター役となるよう努めていく。 ●子どもの遊び、食育等の育児に関して、各家庭で実践できるように、モデル的に実施していく。	●遊びのマイスター月1回継続実施。 ●2～3歳児向けに「つくる楽しみ」を感じるプログラムを新規実施。月1回予定。施。	
		○子ども同士のかかわりを尊重したスタッフのかかわりができているか。		●テーマごとの座談会、ミニひろば、部活動などのプログラムを通して親同士の意見交換が活発になるようスタッフから働きかける	
		○親自身の学びの場になっているか。		●「遊びのマイスター」や畑の収穫物の調理を日常的に実施し、家庭でも取り組めるようレシピの提供や素材の提示などを行った。プログラム実施内容について、HP、あっとどろっぷでも開示し参加者以外にも情報提供も心がけた行った。 ●公立保育園との合同事業にて離乳食、オヤツ作り講座を実施。引き続き日常的な実践として取り組む。	●母子保健分野に関わる専門職領域については、保健師等の専門職が支援する。また、内容により、他機関の専門職への橋渡しをする。
	⑦ 親同士がささえあう状況ができている。	○利用者の間に交流しやすい雰囲気ができているか。（再掲）	【法人】 ●利用者が、親子ボランティアなどの形で、親同士のささえあいへの関りの度を深めることに伴い、一方でその人の子どもの遊びを保障することが必要となることから、拠点の居場所にいる中で、利用者同士で相互に子どもを見合う仕組みづくりに取り組む。	●日常のひろばプログラムでの相互保育が出来るような仕組みづくり。	
		○利用者同士が相談、情報交換し、課題解決しあう仕組みや仕掛けがあるか。		●利用者が、親子ボランティアなどの形で、親同士の支え合い、関りの度を深めることに伴い、一方でその人の子どもの遊びを保障することが必要となることから、拠点の居場所にいる中で、利用者同士で相互に子どもを見合う仕組みづくりに取り組む。	
	⑧ ☆居場所企画運営に利用者が積極的に参画している。	○利用者が居場所企画運営に参画する仕組みや仕掛けがあるか。	【法人】 ●結成された自主グループが当事者を支えていくような目的で活動していけるよう支援していく。		
		○さまざまな参画者が、各々の得意分野を生かせているか。		●NP事後グループ、父親プログラム事後グループの活動を地域の企画との連携も視野に入れながら継続支援。 ●部活動が地域の子育て支援の活動と関わりをもてるよう促す。 ●発達障がいなど特別なニーズのある子と保護者たちのつながりが就学後に関係性を保てるような支援について検討する。 ●ひろばの利用・環境維持について利用者の自発的な行動が生まれるよう働きかける。	
	⑨ ☆居場所企画運営に地域のボランティアが積極的に参画している。	○ボランティアの受け入れを行っているか。	【法人】 ●ひろばで活躍しているボランティアを地域の活動につなげていくようにコーディネートしていく。 ●親子、学生、シニア等様々なボランティアが情報交換し、ボランティア活動の成果を感じることができるように交流会を設置する。 【区】 育成したボランティアが地域や他の事業の活動につながるように、地域の支援者や区役所内に呼びかけをしていく。	●前述のニーズ調査のなかで、障がい児支援のための項目も入れニーズ把握を行う。	
		○ボランティアが居場所企画運営に参画する仕組みや仕掛けがあるか。		●ボランティア交流会の継続実施	●育成したボランティアが地域や他の事業の活動につながるように、地域の支援者や区役所内に呼びかけをし、活動の場について情報提供する。
		○ボランティアが、各々の得意分野を生かせているか。		●シニアボランティアの間口をひろげるため、子どもに関わる面以外の作業面などでのボランティア募集を地域の方に働きかける。	
		○ボランティア数が増えているか。			

機能	目指す拠点の姿	振り返りの視点	次期５か年で取り組むこと	平成２３年度行動計画 ・達成目標（法人の役割）	平成23年度行動計画・達成目標 （行政の役割）
情報収集・提供	① 来所が困難な方も含めて、必要な情報を容易に入手できるようになっている。	○ニーズにあった情報が提供できているか。	【法人】 ●子育て情報以外の生活に関連する情報収集と提供を行う。 ●子育て家庭が情報を入手しやすいと思われる産科、小児科等の医療機関やコンビニ、スーパー等における、子育て情報ファイルの設置等の情報提供を行う。	●就労に関する講座情報など、他の子育て情報と異なる性質のものは、情報の見せ方として、明確に内容を区別できるように工夫する。 ●就労についてハローワーク担当者の出張講座開催	●市、関係機関からこども家庭課へ周知情報として送られるものについて、拠点と情報の共有を図る。
		○さまざまな媒体を活用した情報発信ができているか。		●利用者が必要な子育て情報以外の情報とは何か具体的に明らかにする。利用者アンケートによるニーズ調査など行う。	●拠点から入手先についての相談、要請があったときには関係機関との迅速な調整を図る。
		○拠点以外の場を通じて情報発信をしているか。		●拠点が遊び場だけでなく、情報が入手できる場所であることを積極的に広報したり（子育て家庭が入手しやすい医療機関や店舗など）、又環境整備を行う（門扉周辺含めて）	●町内会や区役所内他部署などへの働きかけを行う。 ●労災病院にあっとどろっぷの設置の働きかけを行う。
		○利用者が、必要な情報を容易に選び出すことができるか。			
		○さまざまな子育て情報が拠点で入手できることが、区民に認知されているか。		●「そもそも子育て支援拠点とは」の部分から、子育て当事者以外にも拠点の存在を広く浸透するよう周知の機会を増やす。	●広報よこはま港北区版で年2回どろっぷ事業紹介 ●こんにちわ赤ちゃん訪問事業での配布資料の整備、各地区で配布している内容についてどろっぷへの情報提供を行う
	② 地域における子育ての情報が収集され、入手できるようになっている。	○地域における子育て情報の収集をする仕組みがあるか。	【法人】 ●地域の支援者が、拠点を通じて主体的に情報発信ができる仕組みづくりを行う。 ●情報が少ない地域について、地域の支援者等との連携強化、情報収集を行う。 ●自治会等からの地域情報の収集、発信を行う。 ●当事者の地域理解を促進のため、地区ごとの地域福祉保健計画をファイルに整理し設置する。 ●ココめ～るの情報の内容の種類、範囲を拡大する。	【継続】●既存の支援者間の複数のネットワークを把握し、ネットワーク間、個人間で情報交換できる仕組みづくりについて検討する。（ネットワークにも同じ項目） ●子育て支援者・主任児童委員が必要な【情報】がどういうものなのかを把握する。 ●情報発信のスキルアップに必要なニーズを探る。	
		○区内の幅広い地域の子育て情報が集まっているか。		●多胎児配信枠を検討する。	●編集会議を通して、支援者との意見調整や助言、必要に応じて配信枠の拡大などの手続きを行う。
		☆子育て応援メールマガジンココめ～るの発信が活発にされているか。			
	③ 利用者自身が、拠点を通じて情報提供できている。	○利用者自身が、拠点を通じて情報提供できる仕組みや工夫があるか。	【法人】 ●ココめ～るの他、さらに多様な媒体による子育て当事者による情報発信の機会、仕組みづくりを行う。 【区】 ●ココめ～るに子育て当事者が発信する情報を掲載する仕組みづくり（掲載基準の制定等）を行う。	●港北区一貫マップ（サロン、公園遊び等）の作成、掲示。	●サークルリーダー会と拠点が連携できるよう調整を図る
	④ ☆情報収集、提供のしくみづくりに利用者が積極的に参画している。	○情報収集、提供の企画に利用者が参画する仕組みや工夫があるか。	【法人】 ●拠点利用者が企画、作成する利用者通信誌の発行を行う。	●サークルアルバムの作成、広報。 ●助成金説明会の開催 ●ボランティア主体の情報発信の仕組みを確立する。	
		○さまざまな参画者が、各々の得意分野を生かせているか。		●テーマ別座談会の記録などを利用者自ら発信できるよう仕組みづくりをする。	

機能	目指す拠点の姿	振り返りの視点	次期5か年で取り組むこと	平成23年度行動計画・達成目標（法人の役割）	平成23年度行動計画・達成目標（行政の役割）
ネットワーク	① 地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	○子育て家庭のニーズを踏まえたネットワークづくりがされているか。	【法人】 ●「港北区子育ネットワーク会議」の分科会で具体的に取り組んでいる内容はネットワークを活用し、区内で実施か所を増やしていく。 ●ネットワーク推進にあたり、拠点、区、社会福祉協議会の役割を明確にしていく。 【区】 ●複数ある子育て支援関係の会議の目的を確認し、統合や整理ができないか検討する。 ●既存のネットワークと連携しながら港北区の子育てに関する課題の発見・解決に向け協働をしていく。	●マップ分科会、公園分科会は継続して支援し、当事者の意見をもとにした事業に取り組む。	●ネットワークの目的を法人と区の社会福祉協議会共有し、連携の要として、橋渡し役に努める。その時々の課題に対して、どの機関、ネットワークにつながることが効果的かという視点で助言、調整を図る。最低年2回のネットワーク会議の実施。
				●どろっぷ利用者が住んでいる地域の計画への関心を高め、子育て世代としての意見を計画へ反映できるように図る。	
		○地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、課題を共有するための場、機会、情報を提供できているか。		●保育園との交流事業の実施、参画を通し、更なる地域交流事業の連携を深める。	
		○地域の子育て支援関係者が、協力しあう関係となるためのコーディネート、仕掛けができているか。		●既存の支援者間の複数のネットワークを把握し、ネットワーク間、個人間で情報交換できる仕組みづくりを検討する。（※再掲・情報提供にも同じ項目）	
				●ネットワークを通して新たな人材を発掘し、関係機関から要望があったときに、ボランティアの受入れや活動支援など柔軟に応じられるようなボランティアコーディネートに心がける。	
				●課題別のグループ（障害など）の状況、関係機関などの知識を深めひろば利用者への情報提供が充実するよう心がける。	
		○子育て支援の取り組みが地域全体へ広がっているか。		●企業と連携できる分野があるか検討する。	
	② ネットワークを活かして、地域の情報収集・共有や、拠点利用者の地域へのつなぎができている。	○地域の情報収集・共有をする仕組みや工夫があるか。	【法人】 ●ネットワークを活かしてより効果的に地域のサービスに利用者をつなげ、拠点利用者の過密状況への対策にもつなげる。 ●拠点で集約する情報を、地域の子育て支援関係者へ提供する。	●主任児童委員、民生委員、居場所連絡会などと積極的に連携、参加を通し、地域情報の共有と周知に努める。	
		○拠点利用者を地域へつなげる仕組みや工夫があるか。		●地域ケアプラザと連携した取り組みを実施する。	
	③ ☆当事者間のネットワークを構築・推進し、当事者による子育て支援活動が行われている。	○当事者が、互いに知り合い、理解し、課題を共有するための場、機会、情報を提供できているか。	【法人】 ●妊娠期からの子育て支援を実施していくための妊娠期の方のネットワーク化 ●働く親のグループ化 ●できているグループが地域で活動できるようコーディネートする。	●再掲：拠点で生まれたボランティア活動グループが活動場所を地域に移せるようになったり、地域から拠点利用者以外の人材が入ったりできるような仕組みを検討する。	
		○当事者が、協力しあう関係となるためのコーディネート、仕掛けができているか。		●再掲：地域の子育てサロン、サークルに、拠点で発生したボランティア活動グループが参加したり、交流できるような機会をつくる ●主体的に活動できる多様な場を用意する。	
		○拠点を越えて地域の活動をつなげていく仕組みができているか		●どろっぷ利用者が住んでいる地域の地域福祉保健計画への関心を高め、子育て世代として今後の策定や実施に参画していくような働きかけを行う。	

機能	目指す拠点の姿	振り返りの視点	次期５か年で取り組むこと	23年度目標 （法人の役割）	平成23年度行動計画・達成目標 （行政の役割）
子育て相談	① 気軽に育児に関する相談ができる場となっている。	○相談者とスタッフとの間に安心して相談してもらえる信頼関係ができているか。	【法人】 ●相談の解決が難しくなるのを予防するために、問題発生した初期の段階で、利用者が話しをできるような対応を継続する。 ●相談ニーズの傾向を区とともに把握し、ニーズに対応できるよう個別に相談対応する他、同じ悩みを持つ親同士のピアサポートグループづくりをする。 ●養育者のエンパワメント、専門的対応の視点から、スタッフの対応能力の向上を図る。 【区】 引き続き、把握した区内の相談ニーズや相談対応に使用できる情報等の提供をしていく。	●電話問い合わせの内容を検討し、電話相談体制について考える。 ●ひろば⇔相談員との綿密な連携を継続して行う。	●把握した区内の相談ニーズや相談対応に使用できる情報等の提供をしていく。
		○どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応ができているか。		●ひろばでの相談などについては、その場で同じ課題を持つ先輩保護者を紹介する、もしくはグループ相談にするなど、養育者同士のピアサポートを促す。	
		○一定の相談実績があり、内容の傾向を把握し、対応が検討されているか。		●利用者が求めてきた情報については、情報発信事業の一環として、円滑に的確に情報が閲覧できるようにしておく。 ●相談事業に特化した情報提供を毎月発行の「あっとどろっぷ」の定期通信にて特集として年度早い内に実施し、その都度求められた人に年間通じて活用していく。	
	② 発達、不適切な養育など専門的対応を要する相談を受け止め、関係機関に結びつけられている。また必要に応じて継続したフォローができている。	○福祉保健センター等関係専門機関との連携、連絡体制ができているか。	【法人】 ●連携先である専門機関の把握につとめる。 ●要連携ケースについて、なるべく早期に両者で対応を検討することができるよう、区とともに連携方法の再確認をする。 ●専門機関と、ケース引継ぎ後も両者が共通の対応ができるよう連携のしくみづくりをする。 【区】 ●連携が必要なケースの引継ぎの時期等について、早期対応ができる体制づくりを拠点とともに行う。 ●外国人家庭の個別支援のしくみについて、情報収集する等検討する。	●お互いが必要な場合には速やかに検討会を開き、その後の対応について検討する。　●年２回（９月と3月を予定）にどろっぷと区のカンファレンスの場を持つ。またそれ以外には適宜必要なときは速やかに事例検討が持てる機会をお互いで創る。	●連携が必要なケースの引継ぎの時期等について、早期対応ができる体制づくりを拠点とともに行う。
		○相談内容に応じて、専門的対応の必要性についてアセスメントできているか。		●毎月１回の相談者カンファレンスを開催し、相談職で個別相談およびひろばでの関わりについてケース検討を行う。	●外国人家庭の個別支援のしくみについて、情報収集する等検討する。
		○専門機関へつなげるための必要な応対ができ、また継続したフォローができているか。		●のびのび月ようびのプログラムにおいて、地域担当保健師と連携をとりながら、どろっぷひろばを存分に楽しむために、課題を抱えた親子へのサポートを心がける。	●法人のスタッフおよび相談員に母子保健の仕組みや専門機関についてのオリエンテーションを実施する
		○専門機関との連携ケースに対応した実績があるか。			●お互いが必要な場合には速やかに検討会を開き、その後の対応について検討する。
	③ プライバシーに配慮した相談環境、対応が確保されている。	○プライバシーを守れる相談環境があるか。		●個室で落ち着いた環境で相談できるようにさらに努力する。	
		○スタッフが守秘義務を遵守しているか。		●ミーティング内や事務所内での伝言配慮	
		○記録等の個人情報が保護されているか。		●個人情報にまつわる研修を従事者が受ける　●記録用紙の保存の徹底	
	④その他			●発達心理学会での相談事業の実践報告を区と共有する（ただし平成22年度学会は震災により中止）	

機能	目指す拠点の姿	振り返りの視点	次期５か年で取り組むこと	平成23年度行動計画・達成目標（法人の役割）	平成22年度行動計画・達成目標（行政の役割）
人材育成	① 地域の子育て支援活動を活性化するため、新たな子育て支援人材を育成している。	○子育て家庭のニーズを踏まえた人材育成がされているか。	【法人】 ●預かりや移動時のサポートを必要としている子育て家庭のニーズが多いため、それに応える支援人材の育成を行う。 ●ひろばで活躍しているボランティアを地域の活動につなげていくようにコーディネートしていく。 ●社協と連携して人材育成を進める。 【区】 ●育成したボランティアが地域や他の事業の活動につながるように、地域の支援者や区役所内に呼びかけをしていく。 ●拠点が育成した人材を、区域全体の活動へコーディネートできるよう、拠点の支援（区のネットワーク活用等）、助言を行う。 ●拠点や社協と連携して人材育成を進める。	●区社協ボランティア養成プログラムとも連携しながら、地域の中から子育て支援に関心がある人の発掘を目指す。（例）ボランティア養成研修の1コマでどろっぷ紹介、見学を入れてもらうなど。	●拠点で育成したボランティアが地域に展開する際の、受け入れ組織への調整を図る。
				●一般の人が参加しやすい【目的が明確】で、【単発でも気軽に手伝えそうな】ボランティアプログラムの仕掛けに取り組む。（例）小学校就学健診、入学説明会での空き教室でのきょうだい児の一時保育をPTAと連携して実施する。このような企画を通して人材発掘につなげていく。	
				●ボラリーグの取り組みが継続したものとなるよう、なるべく活動先が本人の地元に近くなるように配慮する。また子どもに関心ある学生という募集の仕方などを見直し、得意なことを活かして参加しやすい身近な場所でのボランティア活動の入口になるような環境の提供・コーディネートを目指す。	
		○活動等への適切なコーディネートができているか。		●学生ボランティアが継続的に拠点に関われる工夫をする。	●ボラリーグ事業においては、学校連携担当部署、各学校訪問の際の調整、同行に努める。
				●預かりや移動時のサポートを必要としている子育て家庭のニーズは多く、それに応える支援人材の育成。子サポ機能を充実させ連携する。（子育てサポートシステムの項目としても掲載）	
		○地域で子育て支援に関わる人が増えているか。		●ちょっとした手助けがほしいときの利用者同士の助け合いを促す働きかけに取り組む。　●区、区社協と連携して、ネットワーク機能を活用し、既存の支援者と連携できるところから人材を発掘し、地域の活動への参加を促す。	●育成したボランティアが地域や他の事業の活動につながるように、地域の支援者や区役所内に呼びかけをし、活動の場について情報提供する。
				●当事者から拠点ボランティア、保育スタッフ、提供会員など、子育て支援に関わる人材を増加、育成を図る。 ●当事者同士の活動を応援する視点を持った人材育成プログラムに取り組む。例えば子育てサークル活動の活発化のため拠点をどのように利用できるか、従来のサークルアルバムだけでない取り組み等継続して取り組む。	●拠点が育成した人材を、区域全体の活動へコーディネートできるよう、拠点の支援（区のネットワーク活用等）、助言を行う。
		○当事者が次代の支援者へと育っていく工夫がされているか。		●子育て当事者から子育てが一段落しつつある世代の概道を含め、乳幼児期の子育て支援に関心ある人々がつながる中で、互いに学童思春期まで子育てや地域に関心を持ち続けられるような場、機会の提供。	
	② 子育て支援に関わっている人のスキル向上のための支援ができている。	○子育て家庭のニーズを踏まえたスキル向上が図られているか。	【法人】 ●地域の子育て支援関係者に、区内の子育て家庭の状況や最新の子育て支援情報等について情報提供できる機会を企画する。 ●講座、研修の実施など、地域の子育て支援関係者が拠点を活用できる工夫を行っていく。 【区】 ●必要に応じて、人材育成研修実施に関する協力をする（講師派遣協力、参加希望者への周知、他機関との調整等）。	●ある分野で活動歴が長い人への専門的情報提供のための機会という視点ではなく、それぞれの活動を互いに知り合い、連携して区全体としての子育て支援環境の向上、個人のスキルアップにもつなげるため、立場の違う人同士互いに講師となって活動紹介などを行う場を継続して企画する。	●必要に応じて、人材育成研修実施に関する協力をする（講師派遣協力、参加希望者への周知、他機関との調整等）。
		○地域の子育て支援活動のレベルアップ、充実が図られたか。		●講座、研修の実施など、地域の子育て支援関係者が拠点を活用できる工夫を行っていく。（再掲）	

機能	目指すサポートシステムの姿	振り返りの視点	平成23年度行動計画・達成目標（法人の役割）	平成23年度行動計画・達成目標（行政の役割）	平成23年度行動計画・達成目標（市社協の役割）
子育てサポートシステム	子育てサポートシステムに、多くの地域の人の参画が得られている。	○地域の人に子育てサポートシステムについての周知ができているか。	利用会員と提供会員の利便性（近隣で活動できること）を優先しながら、新規登録提供会員への積極的な活動への働きかけを行う。	広報などで事業周知の呼びかけを行う	
		○会員（提供・利用・両方）数拡大に向けての取り組みがなされているか。	広報活動の充実。利用会員向け、提供会員、両方会員向けのレターを定期的に発行し、活動の現状を実際に会員の声をあげながらわかりやすい情報発信を行う。（こさぽこ通信：年3回7月・11月・3月発行）		
		○会員を継続していただけるよう、会員間の交流会や研修会等が開催できているか。	活動中の提供会員の属性（年齢層、地域、時間帯）や、活動内容と提供会員のマッチングなどを分析する。分析した結果を活かし重点をしぼった会員拡大に取り組む。（具体的には、どのエリアの提供会員が少ないのか、学童期の送迎は男性でも取り組みやすい、などをあげていき、地域をしぼっての声掛けや、ケアプラザ、スポーツクラブなどでも積極的に会員募集の声かけをしていく）	子育て中の世代以外につながるように関係部署との連携を図り情報提供の機会の提供・調整を行う。	
			地域の子育て支援活動に関わる方への制度の周知		
			入会説明会は子連れで参加しやすい環境づくりに努める。（わかりやすく視覚的に訴える説明会の資料づくりなど）		
	利用者等の預かり、送迎などの支援ニーズを、必要とされるとき円滑に援助活動につなげている。	○会員（提供・利用・両方）のニーズに合わせた丁寧なコーディネートができているか。	朝、夕に活動できる提供会員の発掘。		
		○援助活動開始後に活動実績の把握や会員（提供・利用・両方）の声を聞きながら、必要な調整をしているか。	情報の共有と対応方針の意識の共通化を図る。（具体的には勤務体制の改善。全員勤務日の拡大など）		
			子育てタクシーを含めて支援につながる他のサービスの積極的な紹介、利用。		
			円滑なコーディネートのため提供会員への連絡体制について検討する（メール利用や事前の予定提出など仕組みについて検討、試行など）		
			拠点でサポート活動があるときは、提供会員、コーディネーター、ひろばスタッフとが連動して拠点全体で支援に取り組める体制づくりをする。		
		○就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由で一時預かりを利用を促進する仕掛けがあるか。			
	援助活動の調整等を通じて把握した支援ニーズを、必要に応じて子育て相談、他機関等による支援につなげている。	○会員（提供・利用・両方）からの子育て支援に関わるニーズを把握するための工夫、仕組みがあるか。	連携する機関・団体へシステムの周知につとめる。		
		○福祉保健センター等関連専門機関との連携、連絡体制ができているか。	専門性のある機関、制度を把握し、サポートシステム以外の支援メニュー（病児保育施設など）の利用も働きかける。必要に応じて拠点の相談員を積極的に利用する。	特別なニーズや、特別な配慮が必要なときなど、他機関との連携調整を行う。	
		○子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。	母子家庭を支援する制度、機関の認識を深める。必要に応じて拠点の相談員を積極的に利用する。	母子家庭支援の制度について研修機会を設ける	
	提供会員などの地域の子育て支援人材を養成し、援助活動や他の地域の子育て支援活動へのコーディネートを行っている。	○提供会員と地域の子育て支援関係者が互いに知り合い、協力し合える仕組みや仕掛けがあるか。	積極的に内外の研修に参画できる機会の提供		
		○一時預かりを実施している機関との情報共有等ができるネットワークづくりがされている。	コーディネーターと会員とのコミュニケーションの機会の充実を図り、提供会員から報告された心配なケースへの支援に取り組む。提供会員同士の交流の機会も積極的に提供する。	提供会員から特別なニーズや、特別な配慮が必要な支援などについて具体的課題があげられたときは、テーマにそった提供会員向けの講座を設ける。	
			座学ではない体験型のスキルアッププログラムの検討	他機関との調整。	他機関との調整。
			提供会員の養成研修年2回実施を目指す。		
			新規登録後の提供会員や活動歴の浅い会員に向けて拠点を利用した体験保育の場の提供（ひろばで一斉預かり活動日、ゆーの保育との連携など）		
			子育てサロンとの連携のなかで、地域で活動している人材が提供会員の活動に関心を持てるような情報提供を行い人材育成に向け取り組む。	既存の子育て支援の制度に参画している支援者に向けて子育てサポートシステムとの連動・調整を働きかける	
	☆提供依頼に即座に対応できる体制づくり		提供会員の活動記録の充実。拠点でサポート活動があるときは、提供会員、コーディネーター、ひろばスタッフとが連動して拠点全体で必要な支援が提供できる体制づくりをする。		